

ぶんせいじゅうさんねんせきおうじけいだいずおよびばくまつころのかまいしみなとえず

文政十三年石応寺境内図及び幕末頃の釜石湊絵図

指定種別：市指定文化財

指 定 日：昭和 53 年 11 月 28 日

所 在 地：釜石市大平町（釜石市立鉄の歴史館）

制 作 年：石応寺境内図 文政 13(1830)年

釜石湊絵図 幕末頃

寸 法：石応寺境内図 軸装縦 111 cm

軸装横 101 cm

図縦 42 cm 図横 89.5 cm

釜石湊絵図 軸装縦 179 cm 軸装横 108 cm 図縦 92.5 cm 図横 90.5 cm



文政十三年石応寺境内図は、文政 13(1830)年 3 月 18 日に釜石村肝煎や老名立会の下、石応寺の敷地を巡見した際に描かれた絵図です。その当時、石応寺は沢村(現浜町 3 丁目)にあり、当時の石応寺を知るうえで重要な資料です。

幕末頃の釜石湊絵図は、中妻から釜石湾が描かれ、大きく蛇行する大渡川や須賀など忠実に地形が描写され、十分一役所や石応寺、大天場山、青出の尾崎神社などの諸施設、鳥谷坂や女坂等の浜街道、釜石街道の道路など、当時の釜石村の様子が詳しく描かれ、土地の利用変遷を知るうえで貴重な資料です。

岩手県立図書館には本図と類似する図があり、明治初期とされているが、内容は文化・文政(1804~1829)頃の三閉路程記の記録に近いものです。



幕末頃の釜石湊絵図



文政十三年石応寺境内図